気づきの向こう側

令和３年　２月２６日（金）
自問清掃通信　　第 10 号

もし、あなたが難しい課題に直面したら、次のＡとＢのどちらを心の中で考えますか。

Ａ「難しいそうだな。自分にできるかな？」
「いや、できるわけないよ。だって、その課題は未経験だし・・・。」

Ｂ「難しいそうだな。どうすれば自分にできるだろう？」
「自分ではやり方が分からないな。でも、解決法や対処法はきっとあるはずだ。誰かに聞いたり、調べたりしてみよう。」

どちらも、同じ課題にぶつかったときに起こる自問自答の流れです。ＡとＢとで、どちらがその後の自分を成長させていくでしょうか？

「自問」とは何かを考えてみようと思い、言葉の意味を調べてみました。

じもん【自問】自分が自分の心に問うこと。
自ら考えること。
広辞苑　第六版　岩波書店

みなさんは、15 分間の自問清掃の中で、「自分の心に問い」、「自ら考えること」を繰り返し、「根気玉」「親切玉」「発見玉」を磨き、自身の成長につなげているのだと思います。一日の中で、自分自身と向き合い「自分の心に問い」、「自ら考える」時間が 15 分もあると考えるのか、15 分しかないと考えるのか、人によって感じ方は違うと思います。

全校生徒がランチルームで食べていた給食が終わると、自問放送が始まり、美化委員が「私の中の私が見たい」を紹介し、そして、黙想。オルゴールの音楽が流れ、それぞれの掃除場所に移動して行った生徒たち。掃除場所に着いた生徒は、Ｍｙ雑巾を濡らし、膝を床に付け、黙々と床を拭き始めました。15 分の清掃時間、ランチルーム、昇降口、階段、教室など弥富北中の様々な場所で黙々と掃除に取り組む生徒の姿が見られました。先生たちからの指示や声かけがなくとも、生徒自身が自ら考え、行動し、清掃に取り組んでいる姿でした。

私がこの弥富北中に赴任したときに、初めて見た自問清掃の光景です。そのとき私は「弥北生は、すごい。」と思わず言葉を発してしまいました。中学生でここまでのことができるのかと思いました。きっとこれは、卒業生や先輩たちが築き上げてきた伝統が脈々と受け継がれてきたからだと感じました。

これまで通りに全校生徒がランチルームで会食をすることが難しいコロナ禍の今、私が初めて見た自問清掃の始まりとは違っていますが、15 分の清掃時間に、Ｍｙ雑巾を濡らし、膝を床に付け、黙々と床を拭き、黙々と掃除に取り組む弥北生の姿は変わっていません。

今後、みなさんが弥富北中学校を卒業し、それぞれの進路に向かっていく中で、難しい課題や仕事などに直面したとき、この弥富北中学校で３年間、継続してきた 15 分間の自問清掃を思い出してみてください。その時間に自分自身と向き合い、自分の心に問い、自ら考え、気づいたことを。

さて、はじめのＡとＢとで、どちらがその後の自分を成長させていくでしょうか？最初に自身に問いかける言葉によって、その後の行動が全く違ってくると思いませんか。

（文責：河野　　進）